

工学研究科

	年次	定員	志願者		受験者		合格者	入学者	
			学内	学外	学内	学外		学内	学外
学生の確保 (人)	1年次	—	—	—	—	—	—	—	—
		※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
3年次 編入学		—	—	—	—	—	—	—	—
		※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)	※ (—)
学位授与数 (人)	博士課程修了				論文博士		博士課程修士		
	修了年次定員		修了者数		授与数		授与数		
	78 (78)		37 (40)		3 (1)		1 (—)		
学生の研究活動 (件)	論文・著書発表数			学会発表数			受賞・表彰等		
	82 (87)			138 (142)			4 (3)		
学生の進路 (人)		教員	企業	公務員	研究員 (学術振興会)	その他			
	修了者	— (2)	4 (7)	— (25)	10 (3)	23 (3)			
	退学者	— (—)	— (9)	1 (2)	— (—)	2 (3)			

・「学位授与数」の欄の「博士課程修士」は、中間評価の合格者数を示す。

・() は前年度の数値を、* は外国人留学生を内数で示す。

1 工学研究科の活動

30年続いた工学研究科の活動が平成15年度をもって終了した。平成16年3月現在62名の学生が在籍していたが、なるべく多くの修了者を出すべく、特例による1ヶ月遅れの論文審査を併用した。6名の学生がその制度を利用した。その結果、3月期の学生移動は次のような内訳になった。

修了者34名、退学者5名、転研究科23名（システム情報工学研究科18名、数理物質科学研究科5名）。この他に、7月期の修了者は、6名（課程博士3名、論文博士3名）であった。これにより、本研究科始まって以来の合計で、606名の修了者（単位取得退学者を含まず）を出したことになる。

2 教員の教育業績評価の状況

本研究科は、特に教員の教育業績評価を行っていないが、飛び級や受賞など学生の名誉を通じて間接的に指導教官の誉れが得られる。学生の学会発表や論文公表によって、学生の所属する研究室の活力が向上して指導教官の技量が評価される。

3 自己評価と課題

本研究科廃止に際して、半数弱の学生が規定年限内に修了できなかったことは、残念である。一方、外国や国内での研究において、めざましい活躍をした学生が少なからずいたことは、指導教官はじめ研究科の構成員の努力の賜物である。本研究科の構成員は主に、システム情報工学研究科と数理物質科学研究科に分かれるが、新しい研究科において、今まで以上の成果が挙がることを期待する。

本研究科の残務整理のため、非常勤職員を平成16年8月まで任用することになった。その間、本研究科の重要書類を光学的にスキャナーで取り込み、PDFファイルにしてCD-ROMに保存するとともに、計算機のファイルをノートパソコンに取り込み保存することになった。